

普及活動情勢報告（令和2年1月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

選果こん包施設認証を取得しました・・・JA高知県中村支所集出荷場・・・



管内ではイチゴ品種‘おおきみ’が輸出されています。令和元年8月からタイ向けの基準が変更され、輸出時に「選果こん包施設認証」の写しの添付が必要になりました。普及課は四万十市のJA高知県中村集出荷場と認証取得に向けた審査準備を進めました。

令和元年12月26日、環境農業推進課、農産物マーケティング戦略課により認証審査が行われました。当日は、集出荷場の清掃の手順書や記録、出荷物のトレーサビリティなどが審査され、令和2年1月8日に認証されました。

今後は、タイへの輸出を再開するとともに、‘おおきみ’の生産を振興し輸出の増加をはかります。

栽培管理の基本を学ぶ・・・JA高知県三崎支所ソラマメ栽培講習会・・・



12月27日、土佐清水市三崎のソラマメ栽培ほ場において、ソラマメ栽培講習会が開催され、生産者6名が参加しました。

JA営農指導員から、収穫する枝を確保するために重要な主枝の誘引や今後の摘花・摘莢作業などについて説明があり、農業改良普及課からは病虫害防除のポイントについて説明を行いました。

三崎地区では今作から新規就農者も含め3戸が初めてのソラマメ栽培に取り組んでいます。ほ場で実際に作業しながら説明したことで、手順が良く理解できたようでした。

農業改良普及課では、今後もソラマメ生産者の確保と栽培技術向上について支援を行っていきます。

テッポウユリの品質を守るために・・・大方南部テッポウユリ部会・・・



1月8日、大方南部集出荷場にて、生産者5名を対象に出荷物自主点検の結果を報告しました。

自主点検とは各生産者が荷造りし、集出荷場に出荷したテッポウユリを部会員が互いに確認するという二重チェックで、テッポウユリの品質を維持するために行っている取組です。

点検結果は、生産者ごとの指摘事項が分かるようになっており、生産者は自分の結果はもちろん、他の方の結果も確認し、比較していました。農業改良普及課は、今後も、指摘事項に応じて各生産者の品質が維持向上できるよう、栽培管理・荷造り技術の向上に取り組んでいきます。

自作式UECS機器の勉強をしました

・・・UECS機器先進農家見学会の開催・・・



1月14日、四万十町大正において、UECS（ユビキタス環境制御システム）導入の先進農家での機器見学会を開催し、関心のある8名（キュウリ、ミョウガ、ナスの各生産者）が参加して同機器の取扱方法を学びました。

参加者は、自作である故のメリット、デメリットを実感するとともに、自己ハウスへの導入をイメージした質疑応答、部材の選び方のコツや困った時の情報交換の場の利用など、実場面に即した意見交換が行われました。

農業改良普及課では、UECSへの関心の高まりに合わせて、情報提供や勉強会開催を進めていきます。

次作の水稻栽培に向けて

・・・水稻育苗講習会（中村水稻生産部会）・・・



1月16日、JA高知県中村支所管内2カ所で水稻育苗講習会を開催し、計12名が参加しました。

農業改良普及課からは、育苗から田植えまでのポイントや‘よさ恋美人’、‘夢あおば’の栽培についての情報提供を行いました。また、資材メーカーからは、効果的な除草方法等について説明がありました。

参加者からは、除草効果が偏らない方法等の質問が出され、栽培管理についての理解が深まりました。

農業改良普及課では、今後も講習会等を通して、栽培管理技術の向上を支援していきます。

期待してます、若手作業員さん！

・・・JA西土佐支所栗部会剪定作業班講習会・・・



1月16日、四万十市中半で、剪定作業班対象のクリ剪定講習会が行われ、営農指導員も含め5名が参加しました。今まで高齢の作業員が受託していましたが、今年から若手の米ナス生産者2名が農閑期の仕事として加わったので、農業改良普及課が初心者向けの講習を行いました。最初は仕上がりのイメージが湧かない様子でしたが、何本か剪定するうちに初歩的な剪定の知識は理解できるようになりました。

今後は園地条件や樹勢に応じて、施肥の加減も含めて剪定を指導し、クリ剪定の技術者養成を進めていきます。